

我堂八幡宮（がどうはちまんぐう）

開運松原六社参りのひとつ。品陀別命ほんだわけのみことを祭神とする。京都の岩清水八幡宮いわしみずの分霊を勧請したものである。延享元年（1744）の「両我堂村明細帳」には「十五社明神」、享和2年（1802）の「東我堂村明細帳」にも「氏神十五社神」とあり、江戸時代は十五社と呼ばれた。

明治初年に八幡神社と称した後、大正2年（1913）に産土神社うぶすなと改め、のち我堂八幡宮の名で現在に至っている。厄災を祓い清める厄除宮やくよけとしても知られる。

明治初年まで、現社務所の場所に神宮寺（宮寺）の黄檗宗寺院があった。同寺本尊の阿弥陀如来像は61.5センチメートルの坐像だが、像裏に「本尊阿弥陀如来 神宮寺置之 永和三丁巳年 施主成田誓玄居士」の銘がある。成田氏が南北朝時代（北朝年号）の永和3年（1377）に寄進したとある。本像は、近くの善正寺ぜんしょうじ（天美我堂）に移されている。

現西鳥居が旧来の参道であったが、この鳥居側に6個の力石ちからいしが置かれている。東我堂村・西我堂村の若者らが力試しに使った楕円形の自然石である。いずれにも文字が刻まれ、「明治石 東連中□□□」「金剛石 東連中」「八幡石 西連中」「竜玉石 西連中」「力石 東連中」「力石 西連中」とあり、明治時代初期のものと思われる。